

ほかほかだより

2024.5.1



ひかり幼稚園では一人ひとりの個性を大切に、子どもたち自身が自分を大切にできる心を育み、友だちと想いを伝え、認め合える・・・そんな豊かな仲間関係を築いていくため、“人権を大切にする保育・教育(人権教育)”に取り組んでいます。たくさんの方との出会いや触れ合いを通して、様々な文化を知り、体験を重ねています。その中で、一人ひとり同じ人はいないので、ありのままの自分を見つめ、他者(違い)を認め『自分のことが大切だから、みんなも大切』と感じてほしいと考えています。そしてこれから先、さまざまな人と出会ったときに『見た目や先入観で人を判断せず、相手を受け入れられる心が育ってほしい』と願っています。

具体的な取り組みの内容をお知らせするためのお便りとして、『ほかほかだより』を発行します。読んでいただき、お家の方と私たちが同じ思いをもって子育てをしていけることを願っています。また、お便りを見ながら人権を考えるきっかけとなり、お子様との対話を楽しめる時間となればよいなと思っています。

今回は、端午の節句に飾るこいのぼりの造形あそびして、日本の伝統行事について、話しました。

【端午の節句】

昔は、男の子が誕生すると武家たちが、のぼりを立てて成長を祝っていました。それが次第に、鯉が滝を登り龍になるという言い伝えから「強い心を持った子になってほしい」との願いがこめられ鯉のぼりをあげるようになりました。

【こどもの日の日付けについて】

子どもに関する風習としては3月3日の「ひな祭り」と5月5日の「端午の節句」があり、これを合わせて5月3日とする案もありましたが、5月3日は憲法記念日とすることとなったため、季節のよい5月5日を採用することとされました。こどもの日が5月5日とされた背景にはこうした経緯があり、「決して男の子だけを対象としたのではない」と説明されています。

3歳児は

こいのぼりは「子どもたちがすくすくと育つように」という思いがあることを伝えました。また柏餅やちまきなどをなぜ食べるのか?という話もしました。

4・5歳児は、

ホールに集まり、こいのぼりや柏餅などの写真を見ながら話を聞きました。鯉は滝を登って龍になる力強さがあり、子どもたちがすくすくと育つよう願いがこめられていることや、柏餅の葉やちまきの笹、菖蒲湯に意味があることを知りました。みんながすくすくと元気に育ちますようにと話をしましたよ。

3歳児は、
こいのぼりの模様を描き
目も貼りました。



4歳児は、
うろこ型に色を塗り、うろこ
と目をのりで貼りました。



5歳児は、
うろこを編み込みで
つくりました。

子どもたちに話をした内容をいくつか紹介します。

- 「こい」はどんな汚れた池や沼の中でも生きられる強い魚。
- 「こいのたきのぼり」中国の昔話で登りきると竜になれるという話があるので、子どもたちにもこいの様に強い心を持った子になってほしいという願いが込められている。
- 「しょうぶ(菖蒲)」強いにおいがあるので「魔除け」病気やケガから体を守る意味がある。
- 「柏餅の葉」落ちることがなく、枯れない葉である。強い葉、柏の様に強くなって欲しいという意味や、健やかな成長を願うという意味もある。

